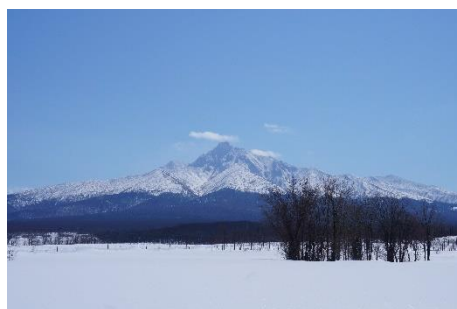




OUTLINE OF OKHOTSK 2025

■ オホーツクの概要	1～3	置戸町	25
■ オホーツクの農業	4	佐呂間町	26
■ オホーツクの林業	5	遠軽町	27
■ オホーツクの水産業	6	湧別町	28
■ オホーツクの商工業	7	滝上町	29
■ オホーツクの観光	8	興部町	30
■ オホーツクの自然・環境	9	西興部村	31
■ オホーツクの環境保全	10	雄武町	32
■ オホーツクの暮らし	11	大空町	33
■ オホーツクの防災・消防	12	■ オホーツクの歴史	34
■ オホーツクの交通・運輸	13		
■ 高規格道路整備状況	14		
■ オホーツクの教育・文化	15		
■ 管内18市町村の紹介			
北見市	16		
網走市	17		
紋別市	18		
美幌町	19		
津別町	20		
斜里町	21		
清里町	22		
小清水町	23		
訓子府町	24		



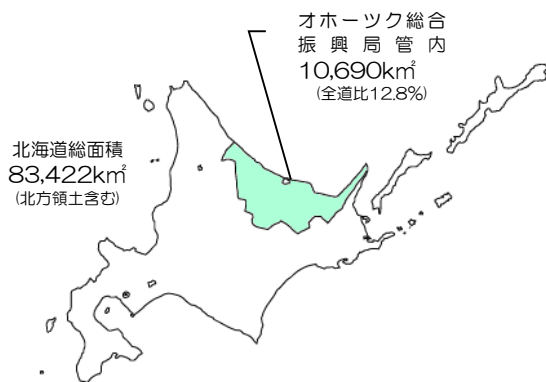
オホーツクの概要

—OUTLINE—

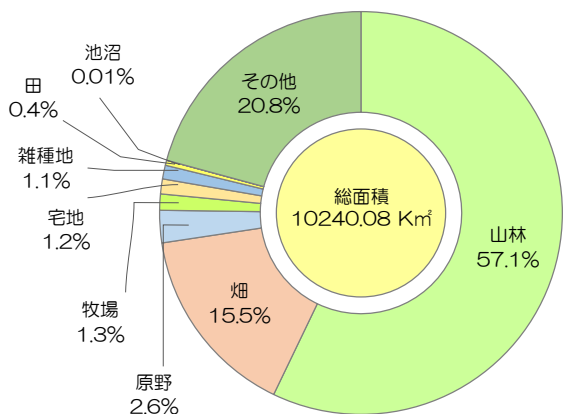
オホーツク地域（オホーツク総合振興局管内）は北海道の北東部にあって、オホーツク海と280kmの海岸線で接しており、総面積は、10,690km²と全道面積の12.8%を占め、岐阜県を上回る広さに約27万人が暮らしています。

気候は冬期間の寒さが厳しいものの、比較的穏やかで、年間平均降水量は700ミリ前後と少なく、日照時間は道内でも比較的恵まれた地域です。

世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残す「世界自然遺産知床」をはじめとした、豊かな自然景観に恵まれているほか、1月下旬から3月にかけてオホーツクを覆う流水は、他の地域では見ることのできないオホーツク特有のものであります。



地目別土地利用面積



(総務省「固定資産概要調査」(令和6年1月1日現在))

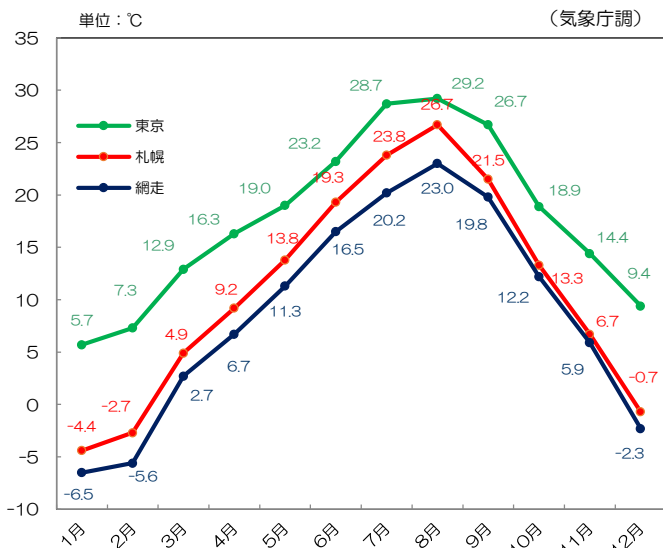
管内と他県の面積比較

順位	県名	面積(km ²)	【参考】人口(人)
1	岩手県	15,275	1,210,534
2	福島県	13,784	1,833,152
3	長野県	13,562	2,048,011
4	新潟県	12,584	2,201,272
5	秋田県	11,638	959,502
	オホーツク管内	10,690	273,362
6	岐阜県	10,621	1,978,742
7	青森県	9,645	1,237,984
8	山形県	9,323	1,068,027
9	鹿児島県	9,186	1,588,256
10	広島県	8,478	2,799,702
参考	北海道	83,422	5,224,614
参考	東京都	2,200	14,047,594

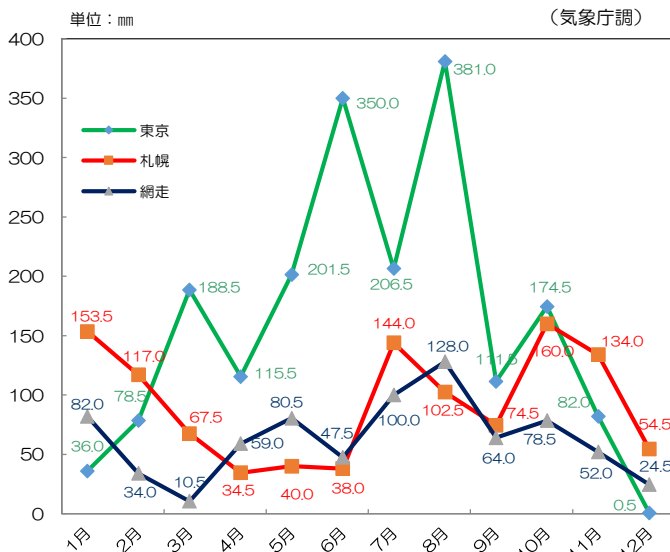
(国土地理院「令和6年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和2年国勢調査」)

気象

■ 月別平均気温(令和6年)



■ 月別降水量(令和6年)

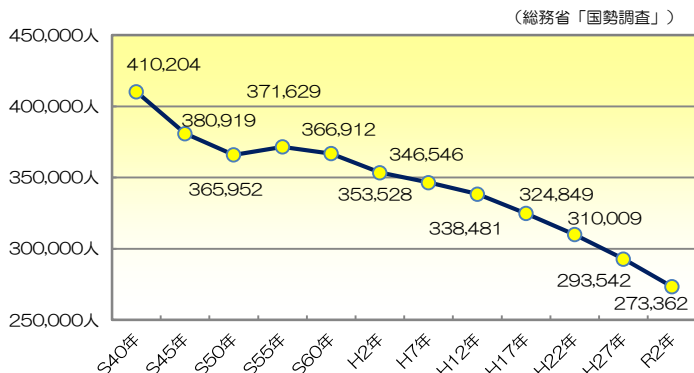


オホーツクの概要

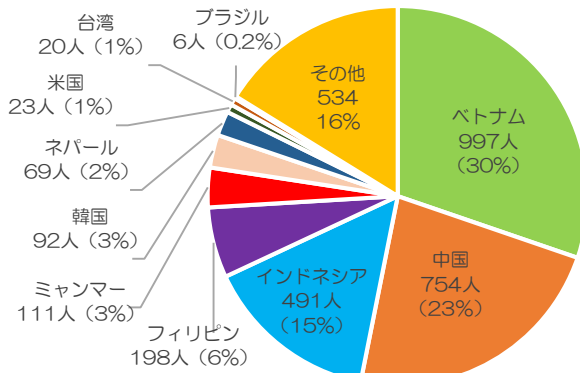
—OUTLINE—

人口

■管内人口の推移



■管内在留外国人国籍・地域別人員



(法務省「在留外国人統計」令和4年6月現在)

流水

11月上旬頃、オホーツク海の北部・アムール川の河口で氷の結晶(晶氷)が現れ始めます。この後、晶氷はだんだん増え、流水へと成長しながら南下し、やがて沿岸部に発生している「道産子氷」と合流して、概ね1月下旬から3月中旬頃まで、北海道・オホーツク地域の沿岸で見ることができます。流水は、近年地球温暖化等の影響により減少してきています。



シンボルマーク

オホーツク地域にお住まいの方や企業、団体が無料で使用できる、地域限定のシンボルマークです。特産品のパッケージや観光パンフレットなどに掲載され、オホーツクのPRに一役買っています。

■オホーツクール



オホーツク地域は、世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残す「世界自然遺産知床」やオホーツク海に訪れる流水など、他の地域にはみられない自然や景観に恵まれているほか、ホタテや玉ねぎといった道内有数の豊富で良質な農林水産資源を有しています。

このような魅力溢れるオホーツクをより多くの方に知っていただくため、管内18市町村と振興局とが連携し、「オホーツクール」をキーワードに、メディアを活用したPRやSNSによる拡散などにより、全国・全世界に向けてオホーツクの魅力を発信しています。

■つくつくオホーツク



オホーツク

オホーツクの素晴らしさを知っていただくため、上から“天力・地力・人力”のオホーツク力を表すキャラクターと、澄み渡る空・オホーツク海の“オホーツクブルー”を表わすロゴを制定しました。

デザインは、津別町在住で著名なアーティスト大西重成さんが担当し、名称は網走支庁(当時)管内の小学生から募集し、6,000人を越える応募の中から決定しました。「運がつく」「力がつく」の「つく」と、「オホーツク」の「ツク」をかけています。

■オホーツクブルー



オホーツク地域在住の各分野の専門家からなる「オホーツク・シンボル委員会」において、歴史・芸術・自然現象などさまざまな観点から、“最もスタンダードなオホーツクブルー”について検討を重ねました。各委員のイメージサンプルによる9色と、一般公募からイメージした1色の計10色を混ぜ合わせて、この「オホーツクブルー」が出来上がりました。

(プロセスカラー(CMYK値)：シアン(C)60%、マゼンタ(M)20%)

■オホーツク・ロゴマーク



東京都のデザイナー須賀裕明氏が考案したこのロゴマークは、北海道と「オホーツク」のラインを「オホーツクブルー」で表現しています。

メインモチーフのサケの尾の部分で、みずみずしい「新芽」をかたどり、「海」「農」「林」などの豊かな資源や自然の魅力(観光)に溢れたオホーツク地域を象徴するとともに、植物が大地から大空に向かって芽生え、成長していく力強いイメージから、「新鮮な活力に満ちたオホーツク地域」、「将来へのさらなる発展」などをシンボライズしています。

